



2017(平成29)年1月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5021

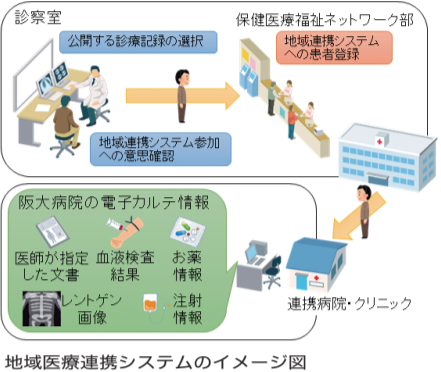
<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

「地域医療連携システム」が稼働より強固な医療機関連携が可能に

本院では、すでに平成22年からすべての診療記録をデジタル化し、この院内の診療記録を、患者さんから合意が得られた場合に、地域の連携病院・診療所から閲覧できるようにする形で当システムをスタートさせます。類似のシステムは他の地域でも運営されていますが、「患者基本情

必要な診療記録を地域の医療機関と共有
医療は一つの病院・診療所で完結するものではないという考えから、現在では地域で連携して一人の患者さんを診ていく医療体制づくりが進んでいます。本院は地域の中核病院として、さまざまな医療機関から紹介いただいた患者さんの診療を行い、退院後は地域の医療機関などで治療を継続していただいております。この医療連携体制をより緊密なものとするのが、電子化された診療記録を地域の医療機関と共有する地域医療連携システムです。



地域医療連携システムのイメージ図



医療情報部の松村泰志部長

本院の診療記録を地域の連携病院・診療所に開示できる「地域医療連携システム」が稼働しました。患者さんの病態や治療内容・状況などを共有することで、退院後の継続的治療をはじめとする、地域医療のさらなる充実が期待できます。

IRUD運営委員会について

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)は、未診断疾患イニシアチブ(IRUD: Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases)を推進しています。IRUDとは「希少な疾患や未診断の疾患に対する先導的な新政策」という意味で、診断に至っていない症例において、「全エクソーム塩基配列決定」を行い、遺伝子診断を積極的に行っていくというものです。

さらに、新規疾患概念の確立、国際連携可能な国内データネットワークの設立などを目標としています。IRUDでは、かかりつけ医から拠点病院への紹介、拠点病院での診断委員会の開催、解析拠点への依頼という流れをスムーズにする連絡体制を構築します。

本院は関西・中国・四国地区の拠点病院となっており、IRUD運営委員会を設置して、遺伝子診療部、難病医療推進センター、及び循環器内科、神経内科・脳卒中科、小児科等の関連する診療科と連携し、IRUDを診療に活かしていくことを目指します。

診断がつかない家系例などのご相談をいただければ幸いです。

国際医療シンポジウム@サンパウロ



国際医療センターは、8月26日にブラジルのサンパウロ市において、第9回大阪大学国際医療シンポジウム「Go Global!! 9」をサンタクルーズ病院と合同で開催しました。当日は、来賓の在サンパウロ日本国総領事館 中前隆博総領事にもご出席いただき、現地の演者、日本側の演者各7名による講演が行われました。参加人数100名を超える大盛況の中、日本とブラジルの医療情報の共有が行われました。

当センターでは、大阪大学の医療の海外発信と国際交流を目的として、本学の海外拠点(サンフランシスコ・上海・グローニンゲン・バンコク)や国内でシンポジウムを開催してまいりましたが、今回は海外拠点以外の場所での初めての開催となりました。本院の取り組む医療の国際化への認知を海外に拡げ、医療従事者間の交流や海外医療機関との連携などの発展に引き続き貢献していきたいと考えています。

め、患者さんは、退院後、地域の医療機関に戻られた場合でも、本院の外を受診される場合と同じく十分な情報のもとで安心して継続的な治療を受けていただけます。

密性の高い個人情報であるため、システムの運営にはガイドラインに沿った高レベルのセキュリティ対策が必要です。それぞれの医療機関のセキュリティレベルに関係なく多様なリスクに対応できるように、インターネットとは異なる独自の専用ネットワークを構築し、外部からの侵入を防いでいます。

当システムの運用を今年から開始し、閲覧できる医療機関を徐々に増やしていく予定です。医療情報部の松村泰志部長は今後の目標について、「運用方法やルールなどを検証しながら、地域医療連携システムのあるべき姿を模索し、より良い地域医療のためのインフラを整備・確立していきたい」と語っています。

再開発計画始動!

本院は平成5年に中之島から現在の吹田に移転し、23年が経過しました。その間、医療ニーズは大きく変化してきました。超高齢化社会を迎え、さらなる医療ニーズの変化に対応していくためには、現在の病院を創りかえて将来に備えていく必要があります。そのため、平成25年度から院内に再開発委員会、事務組織として再開発企画整備室を立ち上げて検討を開始し、これまでに再開発の基本構想(コンセプト、敷地

利用計画、資金計画等)が策定されています。中之島から移転した時のコンセプトは病院情報システム(電子化)を掲げた「インテリジェントホスピタル」でした。これから日本は超高齢化社会を迎え、医療は日々進歩を続け、医療ニーズは刻々と変化していきます。そのような変化をいかに受け止め、人々に貢献する思い(左図)をこめて、「Futurability」待ち遠しくなる未来へ」をコンセプトと

して掲げました。なお「Futurability」は「Future」(未来)と「Ability」(能力)を繋ぎ合わせた言葉で、独自性を保つため商標登録を行いました。今回の再開発計画ではこのコンセプトのもと、現在の地に留まり、既存の枠組みではなく、一から可能性を考え、予想外の展開にも対応できるポテンシャルを育み、病院に関わるすべての人が待ち遠しくなるような病院を創ることを目指しています。現病院の「インテリジェントホスピタル」の概念を拡大し、「インテリジェントメディカルコミュニティ」を構築することで、今よりもさらにパワーアップできる、地域に生き世界に伸びる阪大病院を創る計画を策定しています。

今年度から、野口病院長、木村副院長(再開発担当)によるリーダーシップのもと、全部署に対して将来の医療ニーズに関するヒアリングを実施し、現在、病院長、副院長、病院長補佐から構成される再開発コアワーキンググループでヒアリングの内容を踏まえて基本計画の策定を進めているところです。今後も進捗状況を本紙面上で適宜報告してまいります。

Futurability 待ち遠しくなる未来へ。

ひとりの人にとって、10年後が待ち遠しいこと。社会にとって、100年後が待ち遠しいこと。そんな世界にするために、医療に何ができるだろうか。

これから、人はますます多様な価値観を持つようになる。社会はそのひとつひとつを認めるようになっていく。

人の想いを第一に考える医療へ。様々な幸福感を伝えられる医療へ。必要なのは、新たに生まれる課題に向き合い、新たな方法で解決し続けること。最先端の技術、地域コミュニティ、医学と医療の結びつき...

Futurability

阪大病院は、いつの時代も、今だけでなく数十年先までを見通し、答えを出す。既存の枠組みでなく、一から可能性を考える。予想外の展開にも対応、ポテンシャルを育てている。

すべての人が、自分らしい未来を選択できるように。

新診療科長等ごあいさつ

● 子どものこころの診療センター長
おおぞの けいいち
大 藪 恵一

本院は、発達障害の子どもにも正確な診断と適切な治療を提供してきました。しかし、患者数は増加し、さらに、中高生等にも対処する必要性が生じてきています。そこで、小児科、神経科・精神科、産科及び子どものこころの分子統御機構研究センターなどが連携し、発達障害児の診療を推進することを目的に、子どものこころの診療センターを設置いたしました。発達障害に関して、発達や心理面、脳機能の評価、心理教育、精神療法、投薬治療を行い、包括的に「子どものこころの課題」について対処します。また、必要に応じて、学校や地域との連携を図り、地域貢献も行っています。(平成28年12月1日就任)

平成28年度市民フォーラム

これからの未来医療～未来医療、新時代!!～

臨床研究中核病院市民フォーラム 参加者募集
未来の医療の実現に向けて、臨床研究や再生医療の話をやさしくわかりやすくお話しします

日時 平成29年2月12日(日)
午後1時30分～午後3時30分

場所 グランフロント大阪 北館B2F
コングレコンベンションセンター ホールA

参加費 無料!
要事前申込み

要事前申込み/定員300名 受付先着順 2月3日(金)締切!

申込み方法・お問合せ
郵送またはメール、FAXで、①お名前(ふりがな) ②ご住所 ③性別 ④年齢 ⑤連絡先(メールアドレス・電話番号・FAX番号) ⑥質問(任意)を明記の上、下記あて先までお申込みください。

郵送 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号
大阪大学医学部附属病院 教育研究支援課 総括係
「市民フォーラム事務局」

メール soukatu-event@dm.med.osaka-u.ac.jp

FAX 06-6210-8279

TEL 06-6210-8281

HP <http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/>

QRコードからも御確認いただけます

腎臓内科

高い専門性と幅広い知識で 腎臓病の集学的治療をめざす



腎臓内科のメンバー

腎臓はからだの水分量や電解質ナトリウムやカルシウムなどのバランスを調整する場所であるとともに、数種類のホルモンを作っている重要な臓器です。腎臓内科が対象としている患者さんは、健康診断などで軽度の蛋白尿・血尿が見出された方から、多量の蛋白尿によ

につながらず高いことが知られています。当科では高い専門性ととともに、総合医としての幅広い知識をもとに治療にあたっています。

当科の外来診療は内科西外来にある3つの診察室で行っており、先に挙げた疾患の診療に加え、腹膜透析外来や腎代替療法選択外来(透析が将来必要となる患者さんに、血液透析と腹膜透析の特徴を詳しく説明したうえで選択いただく外来)を設けております。血液透析は外来では行っておりませんが、腹膜透析の外来通院診療を積極的に行っています。

入院については東3階病棟に20床の病床があります。慢性・急性腎炎の診断と治療方針決定に重要な腎生検は年間50件程度行っています。他の診療科へのサポートも大きなウエイトを占め、他疾患で入院されており腎臓病があるあるいは腎臓病を起した患者さんをサポートしています。

当科の最大の特徴は、血液浄化療法を行っていることです。平成27年に14床に増床した血液浄化部(腎臓内科のスタッフが兼任)では慢性腎不全患者さんの血液透析導入、維持透析患者さんの他科入院中の透析、院内発生の急性腎障害への緊急透析のほか、自己免疫疾患に対する血漿交換療法や炎症性腸疾患における白血球除去療法

などを必要に応じて行っています。エビデンスに基づいて積極的に介入し、現時点でベストな医療を提供できるよう尽力しています。I-gA腎症に対する扁桃摘出・ステロイドパルス療法、多発性嚢胞腎や難治性

ネフローゼに対する先進医療の導入も推進しています。また、学会活動、講演会などを通じて地域診療の中で慢性腎臓病についての教育普及活動を行い、有意義に行っています。腎臓病の患者会や腎友会の活動を支援するとともに、新規治療薬が

保険適応になった「多発性嚢胞腎」に関する患者勉強会を活性化するなど患者教育にも力を入れています。当科では最新の知見を臨床の場に活かせる医療の実践に取り組みしております。しかしながら、多くの腎臓病に

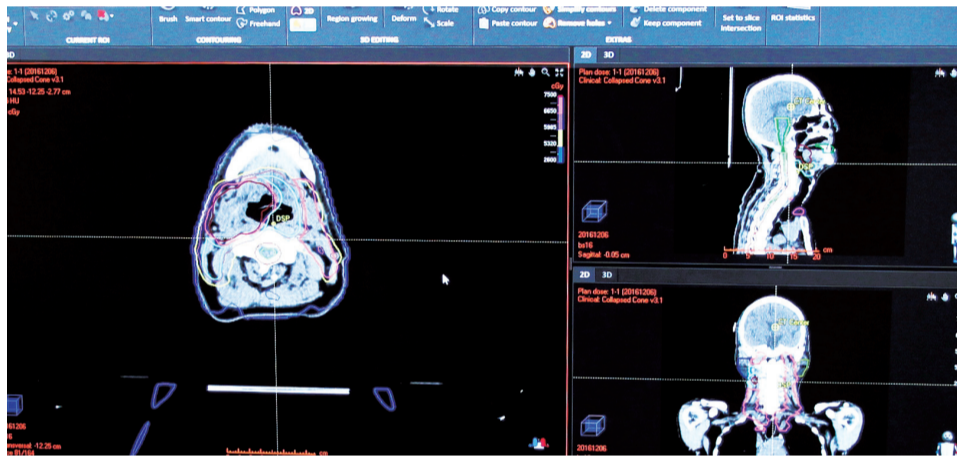
は、根治療法が確立されていないことも事実です。そうした状況下で長期的に病と向き合っていくためには、患者さんに全人的な医療を提供することが、私たちに課せられた使命と考えております。

放射線治療部

チーム医療で低侵襲の治療を 多職種スタッフの連携で治療ゴールをめざす

放射線治療は、手術や化学療法と並ぶ「がん治療」の柱で、安心・安全に切らずに治そうとす

る低侵襲の治療法です。当部では多くの悪性腫瘍に対する照射を行っており、リニアック



機能が一新された治療計画装置

に稼働予定です。一方、小線源治療は、放射線治療装置マイクロセレクトロ

ンHDR)をもちいて、小さな線源を遠隔操作で体内に挿入し照射します。体内からがん

(直線粒子加速器をもちいてX線を体の外部から照射する「外部照射治療」や、密封された放射線同位元素を体の内部から照射する「小線源治療」を実施しています。外部照射治療は、1988年からロボットアームに軽量のリニアックを搭載した放射線治療装置「サイバーナイフ」による治療を開始しており、2014年1月に導入した機種により、患者さんの体内で呼吸により移動するターゲットを自動的に追尾しながら照射できるようにしました。また、放射線がん病巣の形に合わせて照射できる強度変調放射線治療(IMRT)などの高精度放射線治療も積極的に取り組んでおり、正常組織への線量投与を低減しつつ、病巣に十分な線量を投与できる治療が可能になっています。回転しながら治療し照射時間も短縮できる新機種のリニアックも5月以降

は、根治療法が確立されていないことも事実です。そうした状況下で長期的に病と向き合っていくためには、患者さんに全人的な医療を提供することが、私たちに課せられた使命と考えております。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

10/14 ANA航空教室



11/22 消防訓練



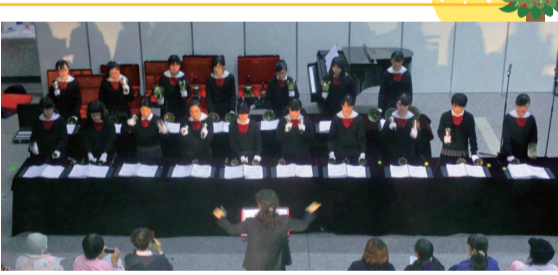
12/10 市民公開フォーラム



12/20 クリスマスイベント



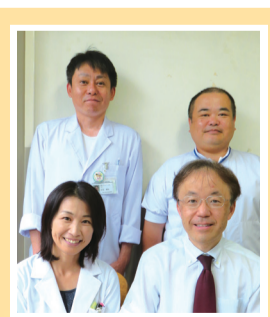
12/22 クリスマスコンサート



病院食アンケート結果

今年度も入院患者さんを対象として病院食に関するアンケートを実施しました。満足度に関する項目では「満足」「やや満足」「普通」を合わせて、一般治療食81%、特別治療食94%と高評価をいただきました。本院では今後も患者さんにより満足いただける病院食を提供できるように努めてまいります。

今年度も入院患者さんを対象として病院食に関するアンケートを実施しました。満足度に関する項目では「満足」「やや満足」「普通」を合わせて、一般治療食81%、特別治療食94%と高評価をいただきました。本院では今後も患者さんにより満足いただける病院食を提供できるように努めてまいります。



- メニュー
・カレーピラフ
・チキンカツ
・スープ
・サラダ
・フルーツ



テーマは「スマイル」 栄養マネジメント部スタッフが患者さんの笑顔を願って考えました

栄養管理室 直送 スパイイス & スマイル 御膳